

出張所の窓辺から

44



淀川管内に7つある、国土交通省淀川河川事務所の出張所から職員が管内のみどころを紹介いたします。今回の担当は福島出張所です。

今回は、植物のヨシの話をしたしたいと思います。みなさん、ヨシってご存知ですか？
17世紀のフランスで科学・哲学の分野で活躍したパスカルは、名著「パンセ」のなかで「人間は、自然の中で最も弱い一本の葦にすぎない。しかしそれは考える葦である」という有名な言葉を残しています。この葦(アシ)こそ、淀川の水辺にもたくさん生育しているススキに似た植物の「ヨシ」なのです。葦(アシ)は「悪し」と連想されるため「ヨシ」と言い換えられたと言われています。



の汽水域には他に見られない特有の干潟環境があります。干潟を囲むヨシ原にはクロベンケイガニが優占し、シオグクやウラギクなどの希少な植物の生育も見られます。十三地区では、昨年度から水際で護岸工事を行っています。工事施工箇所にヨシの群生地がありますので、工事に先立って1kmほど下流にヨシを移植することにしました。

ヨシの移植は、地上のヨシが完全に枯れた初冬～新芽が出るまでの早春が適しており、今回もヨシが枯れた冬の間に移植を行いました。移植方法は、周辺の環境に詳しい方の助言を受けて、建設機材で50cmの深さまでヨシの根茎が含まれている土を採取し、移植先に平らにならしました。まだ移植して1年も経っていませんが、写真のように移植先でも元気に育っています。

ヨシ原は、水をきれいにしたり、魚やエビなどの産卵や稚魚のかくれ場になったり、オオヨシキリなどの鳥のすみかやツバメのねぐらになったりするなど、さまざまな生き物のゆりかごとしても美しい役割を担っています。そして私たちにも美しい河川景観を提供してくれます。

淀川では鶴殿のヨシ原が有名ですが、福島出張所管内でも、西中島や中津、十三などの各地区にまとまった面積のヨシ原があります。特に海水の影響を受ける淀川大堰よりも下流



川と人、人と人を結ぶ
河川レンジャー 淀川管内
RIVER RANGER
NEWS

no. **56**
令和3年
10月発行
2021秋号



水害の備えも
考えよう！

Gagaiimo
いきものイチオシ!!
第27回
桂川出張所管内
河川レンジャーアドバイザー
田子 稔

ガガイモ (鏡芋)

英(さや)が開いて、ガガイモの旅立ちが始まりました。

幸せを運ぶ生物と言われる「ケサランパサラン」をご存知でしょうか？
架空の生物ですが、桂川に生育する「ガガイモ」はその一つと言われています。
名前のいわれには諸説ありますが、芋状の実ができることと、葉と英(さや)の内側に光沢

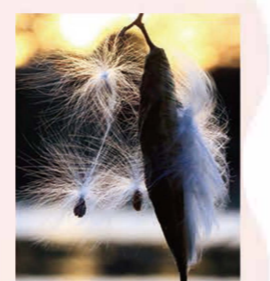
があることで「鏡芋」(カガマイモ)となり、それが転訛して「ガガイモ」になったとの説があります。古事記にも記載があり、古くから身近にあったツル性植物で、夏に星形の花が咲き、秋に芋の様な実が大きくなり、12月頃から実が開いて種を飛ばします。

私はレンジャーになってどんな活動をしたかを発表する場でガガイモの実を開いて種を飛ばしました。その時会場がどよめき、そして「この感動を伝える活動したい」と締めくくりました。

その後の15年間のレンジャー活動にもこの「ガガイモ」は大きな力を発揮しています。自然観察会、小学校への出前授業には必

ず持って行き、タイミングを見て実を開けるのですが、もくもくと出てくる綿毛にぶら下がった種を見て一様に歓声が上がります。子どもたちのその幸せな顔を確かした後、自然の不思議、面白さ、大切さを話して、その素晴らしい自然を残す桂川を「ゴミの無い綺麗な川」にしましょうと伝えています。

私のレンジャー活動を支え、多くの人を幸せな気分させてくれるガガイモ。いつまでも生育していける自然環境が残ることを願っています。



国土交通省のサイト「川の防災情報」では、全国の河川の雨量・水位情報をチェックできます。川遊び中にお天気の変化が気になったときには、ぜひ活用ください。

<https://www.river.go.jp>

河川レンジャーは淀川流域を舞台に行政と流域住民をつなぐ橋渡し役を担っています。詳しくはホームページをご覧ください。

淀川管内河川レンジャー <https://www.river-ranger.jp>

発行責任者：淀川管内河川レンジャー事務局

〒573-0056 大阪府枚方市桜町3-32
TEL:072-861-6801(平日9時～17時)
※本誌掲載記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。

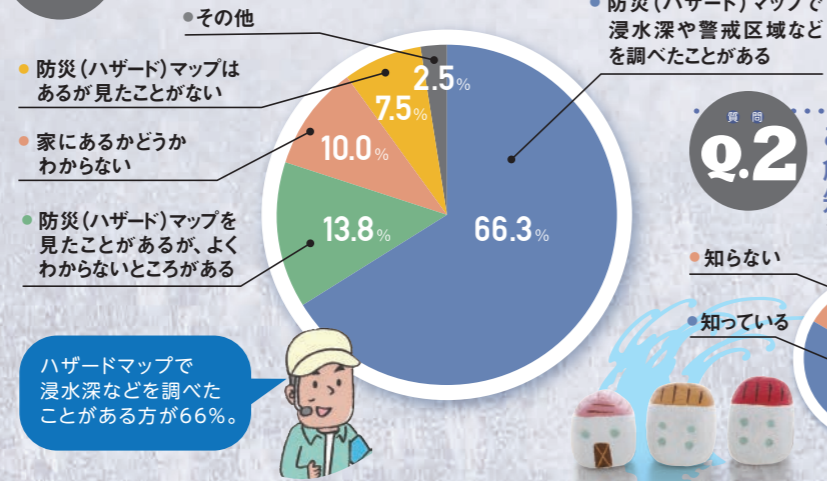
表紙撮影地：桂川(嵐山地区)
歩道側から臨む風景が主役となるよう、周辺の雰囲気との調和を目指した可動式止水壁。この7月豪雨時に実動しています。嵐山の景観を守りつつ、浸水から地域を守ります。

水害の備えも考えよう！

河川レンジャーの活動の一つに水防災があります。近年頻発する水害に対して、自ら考え、命を守る避難行動がとれるよう、地域の防災訓練への参画、学校・自治会への出前講座を行っています。今回は、水防災に対する取り組みに関して、河川レンジャーがアンケートを実施しました。

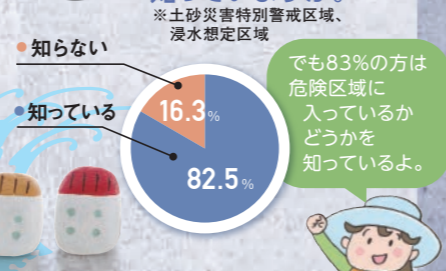
回答者数
80人

Q.1 防災マップを見たことがありますか。



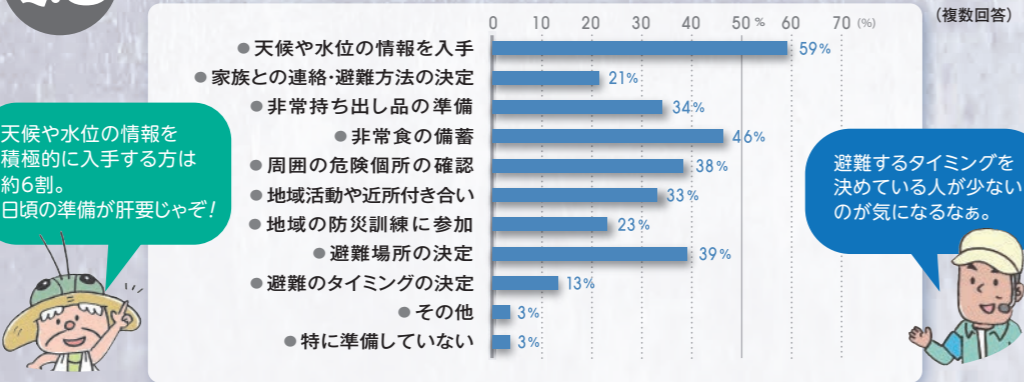
ハザードマップで浸水深などを調べたことがある方が66%。

Q.2 ご自宅が危険区域*かどうか知っていますか。



でも83%の方は危険区域に入っているかどうかを知っているよ。

Q.3 水害時に備えて日頃から行っていることを教えてください。



天候や水位の情報を積極的に入手する方は約6割。日頃の準備が肝じゃぞ！

避難するタイミングを決めている人が少ないのが気になるなあ。

Q.4 水害時の行動で不安に思うこと知りたいことはどんなことですか。

それぞれでいろいろな不安を持っていらっしゃるご様子でした。数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨やそれに伴った土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害で多くの被害が発生しています。いつ避難行動を起こすかのタイミングが非常に重要になっています。

- 近くに細い川があり山も近いので、土砂の流入による突発的な河川増水(ハザードマップに無い範囲。過去にも発生)が心配です。
- 水位上昇の危険を早めに把握する方法を知りたい。
- 居所は直接被害がある場所ではないが、インフラ被害による生活への影響に関心がある。
- 地域の避難場所が初めて水没しそうな場所にある。
- などなど

マイ・タイムラインを(防災行動計画)つくりませんか。



いつ、どこに避難するか？同じ町に住んでいてもご自宅の場所や家族構成などで避難行動は変わってきます。自治体が発行しているハザードマップを用いて、様々な洪水リスクを知り、どのような避難行動が必要か、また、どういったタイミングで避難することが良いのかを自分で考え、さらには、家族と一緒に考えて備えておきませんか。河川レンジャーはマイ・タイムライン作成のお手伝いをしています。

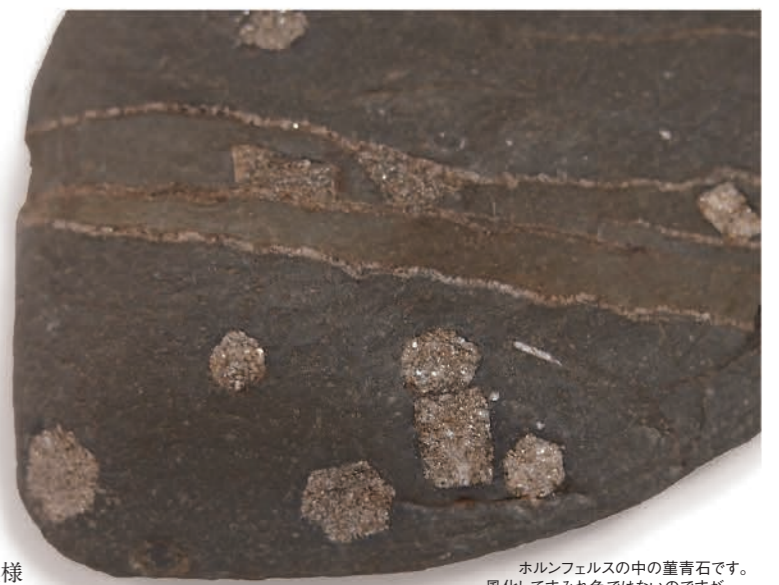


河川レンジャーによるマイ・タイムラインの作成動画を公開しています。
YouTube動画URL
<https://www.youtube.com/watch?v=61yd49UMBK>



木津川出張所管内
河川レンジャー
中西佳代

木津川でトレジャーハンター?! 河原の石に魅せられて



ホルンフェルスの中の董青石です。風化してすみれ色ではないのですが...

皆さんは河原の石をじっくり見たことがありますか？石の名前など詳しいことがわからなくても色や形が様々で見ているだけで楽しめます。まんまるの石、真っ白の石...河原を歩きまわり気分は宝探しです。綺麗な丸い石が並んでいると思ったらコチドリ卵だったことや、土師器(はじき)や須恵器(すえき)といった土器が見つかることもありました。

その本には桜の花びらの様な模様
の石が描かれていて
こんな石が実際にあるのだろうか?と思い、調べてみると京都の亀岡で見つかる石だとわかりました。「京都で?!よし桜石を探しにいこう!」と思ったのですが、今ではもう探すことは難しく天然記念物に指定されているということがわかりがっかり。そんな時、地元で「笹石」や「釘こぼれ石」と呼ばれている石があることを知りました。笹の葉や釘のように見えるのはホルンフェルス*の中の「紅柱石」でした。「紅色の柱状の石」と書きますが、実際にはほとんどが白雲母に変質していて紅色のものは希です。そして、運が良ければ「董青石」(きんせいせき)という石も見つかることができました。こちらも風化によりその色は見られませんが、六角形の形は確認できます。私がこの董青石を見つけられたのは一度だけですが、暑い夏の日、広い河原にぼつんと落ちていた董青石を見つけたときは大興奮でした。私は子供が小学生の時から子供と一緒に

河川レンジャーのイベントに参加して、川を通して植物や昆虫や魚などの自然にまつわること、鉱物や歴史や災害のことなどをたくさん知りました。大人になってからこんなにもたくさんの「へえ!そうなんだ!」に出会えるなんて思いもしませんでした。3月には木津川の石探しの活動を予定しています。是非皆さんも河川レンジャーの活動に参加してみてくださいね。



木津川で石探し



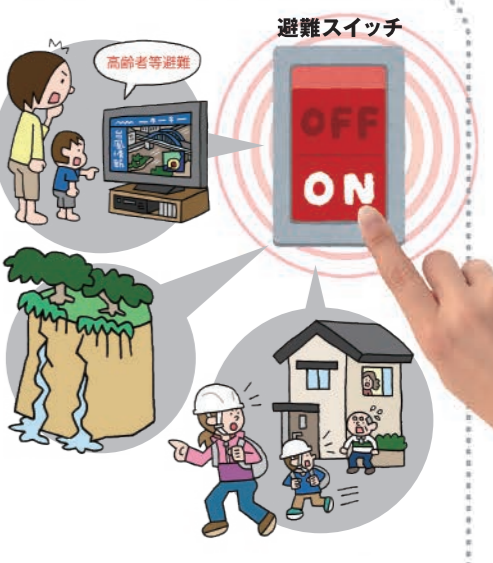
紅柱石

*ホルンフェルス：泥岩や砂岩が熱による変成(接触変成作用)によって生じた変成岩



避難スイッチって言葉、聞いたことがありますか？避難スイッチとは、豪雨災害から身を守るために、住民自らが、あらかじめ避難を開始するきっかけになることを指しています。京都大学防災研究所 矢守克也教授が提唱されている「避難スイッチ」になる材料は3つ。

- 「情報」** 避難指示や勧告、大雨に関する警報、特別警報など気象に関する情報のこと。
- 「身近な異変」** ふだん見えている岩が川の水の下になって見えなくなるとか、いつも最初に水がつくコンビニの駐車場が浸水してきた、など。
- 「人からの呼びかけ」** 隣の家の人が「もう逃げよう」と誘ってくれた、友人がSNSで「××町アブナイらしいよ」と伝えてきた、など。



家族や自主防災組織など、複数の人で「避難スイッチ」を共有して、「みんなで避難スイッチをオンにして、みんなで逃げる」というかたちが望ましい。

今夏の豪雨災害で避難スイッチの活動が生かされて、全員避難ができたという地域があったそうです。いつか来るまさかのために一緒に避難スイッチを作っておきませんか。

○このコーナーでは「そんな情報があるって、知らなかったわ」という耳寄り情報を今後お知らせしていきます。